

令和八年度

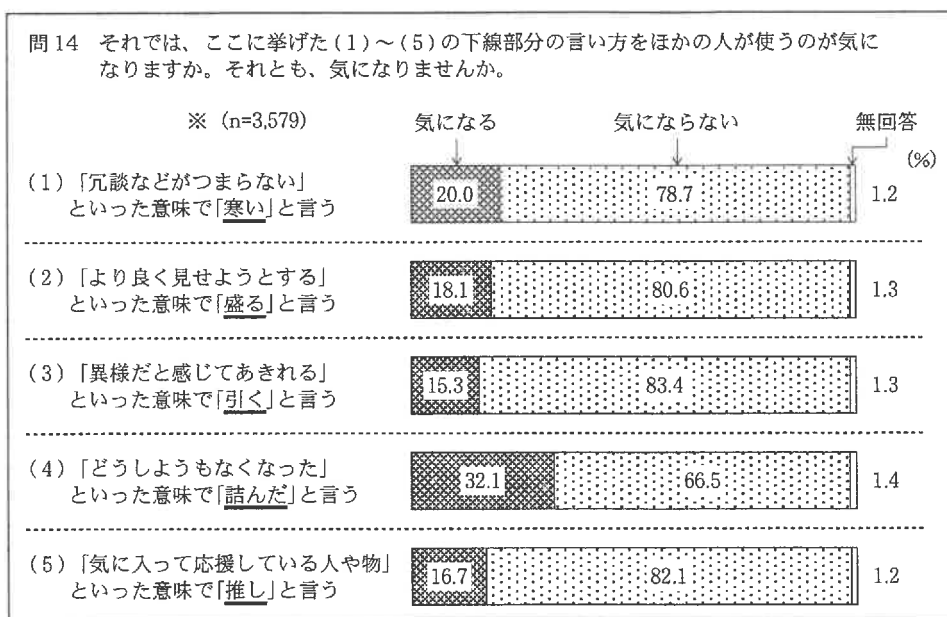
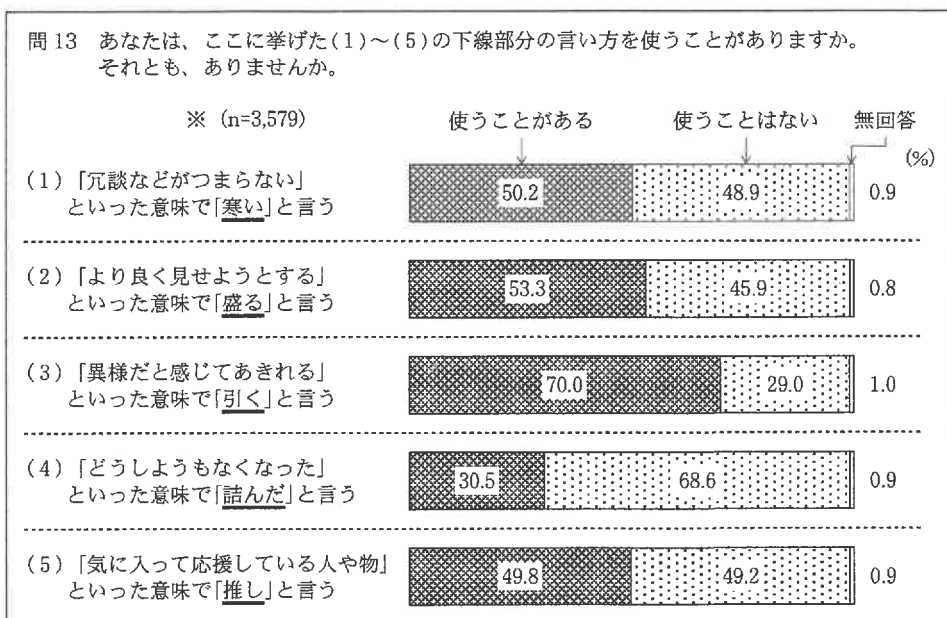
入学者選抜学力検査問題

国語（現代の国語、言語文化）

〔注 意〕

- 一、監督者の指示があるまで、この冊子を開いてはいけません。
- 二、解答用紙のすべてのページに受験番号と志望の専攻を必ず記入しなさい。
- 三、この冊子の問題は、10ページからなっています。落丁・乱丁及び印刷不鮮明な箇所等があれば、すぐ申し出なさい。
- 四、解答は必ず別紙解答用紙の指定された場所に縦書きで記入しなさい。
- 五、解答用紙は持ち帰ってはいけません。
- 六、この冊子は持ち帰ってください。

左のグラフは文化庁が行った「令和四年度 国語に関する世論調査」(令和五年三月調査)の質問(問1～問15)の内、問13・問14に対する回答の集計結果である。グラフから読み取れる言葉の意味の変化について、あなたはどうか考えるか。グラフから読み取った情報を説明した上で、あなたの考えを四五〇字以内で述べよ。(採点は、題意の理解・着想・根拠・論理展開・表現・分量などについて行う。)



※ nは回答者数を表す。

次の文章は、俳人の夏井いつきのネット配信番組を踏まえ、俳人の白濱一羊（しらはいちよう）が季語の理解と俳句の鑑賞について、墓（ひき）、ヒキガエル（ヒキガエル）の俳句を例に、自らの見解を述べたものである。これを読んで後の問いに答えよ。

墓（ひき）ないて唐招提寺春いづこ

水原秋桜子（注1）

「墓」と「春」という言葉が入っているが、現在では「墓」は夏の季語とされている。（注2）夏井は何冊かの歳時記を調べた結果として、「墓（ひき）ないて」の句を「墓」に入れている歳時記もあれば「春」に入れている歳時記もあり、両方に入れているものもあると指摘。さて、この句は春の句か、夏の句か。

一読しての印象は、「墓」の存在は明確なのだから「墓」が季語と思うのではないだろうか。それに対して「春いづこ」は曖昧である。（ア）夏井のユーチューブでも、「春いづこ」の下五をどう解釈するかの影響もすごく大きい」とし、夏井は「最初に見た時に、「春いづこ」だから、ヒキガエルが鳴くような夏の季節になって春はどこに行ってしまったのだろう」というように解釈していた」と話している。

「春いづこ」には、次の三つの可能性がある。

- ①初春。まだ早すぎて春らしくない。
- ②仲春。（注5）もう春なのに春らしさが見あたらない。
- ③晩春。すでに春らしさはなくなってしまった。

「墓」が夏の季語であることを考えると③がダトウのようであるが、ヒキガエルの生態を考えると、①から③のどの解釈も成り立つのである。（注6）

日本でよく見られるヒキガエルは、主に山陰、近畿以東に分布するアズマヒキガエルと近畿以西に分布するニホンヒキガエルの二亜種。（注6）アズマヒキガエルの繁殖時期は冬の終わり頃から夏にかけて、ニホンヒキガエルの繁殖時期は秋の半ばくらいから翌年の春にかけてと、セイソクチなどで幅がある。多くは十一月頃に冬眠し、春になると穴から出て繁殖行動をし、その後、四月頃まで再度冬眠する。春の季語「墓穴を出づ」は繁殖行動と関係しており、「蛙合戦」という季語も、多数個体が一定の水場に短期間に集まり、数の少ない雌を雄が奪い合うという繁殖行動を表している。これはヒキガエルやアカガエルに特徴的な生態である。

ヒキガエルの繁殖行動は、早ければ二月頃からはじまるということなので①の解釈も十分に成り立つ。秋桜子の句が、「墓（ひき）ないて」であるのも注目すべき点である。蛙が鳴く主な理由は、雌に対する雄のアピールであり、雌は鳴かない種類が多い。ヒキガエルも普段は鳴かず、主に繁殖期に雄だけが「グツ、グツ」あるいは「クー、クー」といった低い声を出す。

季語としての「蛙」の本意は、蛙の声に春を感じるところにあるが、（注7）蕉風以前は「墓」も春の季語であった。現在の夏の季語としての「墓」は、繁殖期を

終えた後の、庭などでよく見かけるヒキガエルの姿に着目したものであろう。「墓穴を出づ」と同じように、「墓鳴く」は繁殖行動と関係する春の季語として、「墓」とは別に立てても良いのではなからうか。このように考えると秋桜子の「墓ないて」の句は、春の句と解釈するのがダトウと思われる。

ヒキガエルの声に関する夏井のエピソードが面白い。ヒキガエルの鳴き声は「グエー、グエー」だと思っていた夏井が、それを江戸家小猫に話したところ、小猫が「それは違う」といって、ヒキガエルの鳴き真似をしてみせたという。それは「クイー、クイー」という悲しげな犬の鳴き声のようだった。

それに驚いた夏井は、秋桜子の句の感じ方まで変わったという。墓の声を契機として湧きあがった行く春を惜しむ気持ちを詠んだ句と感ずるようになったそう。

3 (注9)

大野林火の鑑賞も、夏井の鑑賞と一致している。林火はその著『近代俳句の鑑賞と批評 増補改訂』で、秋桜子の句を「行春」(春)の句とし、「春らし

(注10)

い景物の乏しかったことが作者に惜春の情を掻き立てたのである。『春いづこ』は去りゆく春の行方を尋ねている心情である。「春いづこ」には景物の乏

しさとともに、

この寺の盛事を懐古回想する思いもつよく重なっている。「二者は一だ。そしていずれも『墓』によって引出されたものだ」と記している。

(注11)

倉橋羊村はその編著『水原秋桜子』にて、「春先は天候が定まらず、寒さのモドることがある。既成の季語『春浅し』とはニュアンスが違い、風が吹くと急に冷えたりする。当時の唐招提寺はややさびれていた。その感じが表現されている」と鑑賞している。

林火、羊村とも、「墓」ではなく「春いづこ」を季語と判断しているが、林火は晩春の句、羊村は初春の句と見なしているのは、「春いづこ」の曖昧さによるものであろう。

ヒキガエルの生態に基づいて、秋桜子の句の解釈を試みたわけだが、俳句の季語は必ずしも科学的ではないということは周知の通り。長谷川權は「季語は全部フィクションだと最初から割り切ったほうがいい。それにのっとって、片山さんの名言によると『演じる』必要がある。それが俳句です」と述べている。

(注12)

また、作者のサクゴによって作られた句という可能性も否定はできない。

秋桜子の「墓ないて」の「墓」も、実際は他のカエルであつたかもしれないし、極論すれば実態のないイメージである可能性もある。秋桜子の力力げた「自然の真と文芸上の真」の論を持ち出すまでもなく、創作とはそういうものであろう。

集団を作つて繁殖行動をするヒキガエルは声で雌を呼び寄せる必要性が低い。

歌袋ひくつかせゐて墓鳴かず

(注15) 茨木和生

喉袋ふくらみしのみ夜の墓

(注16) 奥坂まや

二句ともヒキガエルのあまり鳴かないという生態を描いているが、多くのカエルの雄にある鳴嚢という声を共鳴させる袋をヒキガエルは持っていない。

これを知らないと、加藤楸邨の代表句（墓）^{〔注17〕} 誰かものいへ声かぎり」の鑑賞を誤ってしまいかねない。
俳句と科学は違うとはいえ、生態を知ってからよむと、名句もひと味違ってくる。

（白濱一羊「墓蛙はいづ鳴くか秋桜子の「春いづこ」を考える」設問の都合上、本文を一部改めた。）

- （注）
- 1 水原秋桜子——俳人（一八九二—一九八二）。俳句の近代化を目指した新興俳句の先駆と見なされた人物。
- 2 歳時記——季語を季節（春、夏、秋、冬、新年）に分類し、例句とともに解説した書物のこと。
- 3 〈墓ないて〉の句を「墓」に入れている歳時記もあれば「春」に入れている歳時記もあり、両方に入れているものもあると指摘——〈墓ないて〉の句を夏の季語である「墓」に分類している歳時記もあれば、春の句として分類している歳時記もあり、両方に入れているものもあると指摘。
- 4 下五——俳句の五七五音のうち最後の五音のこと。
- 5 仲春——春の盛りのこと。
- 6 亜種——生物の分類学上、種の下に設けられた分類単位のこと。
- 7 蕉風——松尾芭蕉やその教えを受けた人々の俳風のこと。
- 8 江戸家小猫——動物鳴き真似演芸家（一九七七—）。現在の五代目江戸家猫八。
- 9 大野林火——俳人（一九〇四—一九八二）。
- 10 景物——四季の趣のある事物。景色。
- 11 倉橋羊村——俳人（一九三一—二〇二〇）。
- 12 長谷川權——俳人（一九五四—）。
- 13 片山さん——俳人片山由美子（一九五二—）。
- 14 「自然の真と文芸上の真」——昭和六年に水原秋桜子が発表した論考。客観的な写生（自然の真）を重視する俳人高浜虚子の立場に対して発表された。
- 15 茨木和生——俳人（一九三九—）。
- 16 奥坂まや——俳人（一九五〇—）。
- 17 加藤楸邨——俳人（一九〇五—一九九三）。

問一 二重傍線部(a)ゝ(e)のカタカナを漢字に直せ。

問二 二重傍線部(ア)ゝ(オ)の漢字の読みを送り仮名も含めてひらがなで書け。

問三 点線部AとBの文法的な違いを説明せよ。

問四 傍線部1について、「暮」を夏の季語として分類する理由を、筆者はどのように考えているか、説明せよ。

問五 傍線部2について、それはなぜか。本文をもとに簡潔に説明せよ。

問六 傍線部3について、大野林火と夏井いつきの鑑賞はどの点で一致しているか。本文中からわかる範囲で説明せよ。

問七 傍線部4と本文中において同じ内容を意味する六字の言葉を抜き出せ。

問八 傍線部5の俳句の鑑賞文を次の条件に従って一二〇字以内で書け。

条件① 情景について説明すること。(情景とは人間の心の動きを通して見た景色)

条件② あなたの考えるこの句の魅力について説明すること。

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

後鳥羽院の御時、交野八郎といふ強盗の張本ありけり。今津に宿りたるよし聞こしめして、西面の輩をつかはして、からめめされける時、やがて御幸なりて、御舟にめして御覽ぜられけり。かのやつは究竟の者にて、からめ手、四方をまきて攻むるに、とかくちがひて、いかにもからめられず。御舟より、上皇みづから權を取らせ給ひて、御おきてありけり。その時すなはちからめられにけり。

水無瀬殿へ参りたりけるに、めしすゑて、「いかに汝ほどの奴は、これほどやすくはからめられたるぞ」と御尋ねありければ、八郎申しけるは、「年ごろからめ手むかひ候ふこと、その数を知らず候ふ。山にこもり水に入りて、すべて人を近づけず候ふ。このたびも、西面の人々むかひて候ひつるほどは、ものの数とも覚え候ひつるが、御幸ならせおはしまし候ひて、御みづから御おきての候ひつることかたじけなく、申し上ぐべきには候はねども、舟の權はしたなく重きものにて候ふを、扇などを持たせおはしまして候ふやうに、御片手に取らせおはしまして、やすやすとかく御おきて候ひつるを、ちと見参らせ候ひつるより、運尽き果て候ひて、力弱々と覚え候ひて、いかにも逃るべくも覚え候はで、からめられ候ひぬるに候ふ」と申したりければ、御氣色あしくもなく、一おのれめし使ふべきなり」とて許されて、御中間になされにけり。御幸の時は、烏帽子かけして、くくり高く上げて走りければ、興あることになん思しめされたりけり。

〔古今著聞集〕

(注) 1 後鳥羽院——第八十二代天皇。建久九年(一一九八)に讓位して上皇となった。

2 張本——悪党の首領。

3 今津——地名。

4 西面の輩——西面の武士たち。院の御所の警備などを担当した。

5 からめめされける時——捕らえなされた時。「からむ」は捕らえること。

6 究竟の者——きわめて力の強い者、武力にすぐれた者。

7 からめ手——人をからめとる者。捕り手。

8 權——船具のひとつ。水をかいて船を進める細長く平たい板。オール。

9 おきて——指図、命令。

10 水無瀬殿——摂津国（現在の大阪府）にあった後鳥羽院の離宮。

11 はしたなく——はなはだしく。とてつもなく。

12 御中間——召使い。侍と小者との中間の身分の奉公人。

13 くくり高く上げて——袴の裾をくくりあげて。

問一 波線部（ア）（ウ）の本文中における意味を答えよ。

問二 二重傍線部（a）の語句の読みを現代仮名遣いで答えよ。

問三 傍線部①・②の文法的説明として最も適当なものを、次の選択肢よりそれぞれ選び、記号で答えよ。

ア 終助詞 イ 接続助詞 ウ 断定の助動詞 エ 完了の助動詞 オ 形容詞の一部

問四 傍線部③について、以下の問いに答えよ。

(1) 現代語訳せよ。

(2) 八郎がどのように判断した理由を、八郎の発言内容を踏まえて説明せよ。

問五 傍線部④について、以下の問いに答えよ。

(1) 後鳥羽院が誰をどのようにしたのか説明せよ。

(2) 後鳥羽院がそのようにした理由を説明せよ。

問六 本文から後鳥羽院はどのような人物だと読み取れるか、本文全体を踏まえて根拠をあげながら説明せよ。

四

春秋時代の晋国の臣下趙宣子は、君主の靈公をしばしば諫めたことから、靈公に憎まれていた。次の文章はこのことを踏まえて書かれたものである。これを読んで、後の問いに答えよ。

宣子田^(注1)於^(注2)首山^(注3)。舍^(注4)于^(注5)翳桑^(注6)。見^(注7)靈輒^(注8)餓^(注9)。問^(注10)其病^(注11)。曰、「不^(注12)食三日矣。」食^(注13)之^(注14)。舍^(注15)其半^(注16)。問^(注17)之^(注18)。曰、「宦^(注19)三年矣。未^(注20)知^(注21)母之存否^(注22)。今近^(注23)矣。請^(注24)以遺^(注25)之^(注26)。」使^(注27)尽^(注28)之^(注29)。而為^(注30)之^(注31)簞^(注32)食^(注33)与^(注34)肉^(注35)。寘^(注36)諸橐^(注37)以与^(注38)之^(注39)。既而与^(注40)為^(注41)公介^(注42)。倒^(注43)戟^(注44)以禦^(注45)公徒^(注46)。而免^(注47)之^(注48)。問^(注49)何故^(注50)。对^(注51)曰、「翳桑之餓人也。」問^(注52)其名^(注53)。居^(注54)不^(注55)告^(注56)而退^(注57)。遂^(注58)自亡^(注59)也。」

〔春秋左氏伝〕

(注) 1 宣子——趙宣子のこと。

2 田——狩りをする。

3 首山——山名。

4 翳桑——首山の近くの地名。

5 靈輒——人名。

6 宦——人に仕える。

7 簞——飯びつに詰める。

8 食——めし。

9 既而与^(注60)為^(注61)公介——その後、靈輒が靈公の兵士に召し抱えられたことをいう。

10 倒^(注62)戟——味方にほこ先を向ける。靈公の兵士でありながら、靈公が配置した伏兵にほこ先を向けたことをいう。

11 公徒——趙宣子を殺すために靈公が配置した伏兵。

12 名居——姓名と住所。

問一 波線部(a)「対」・(b)「遂」それぞれの読みを、送り仮名も含めてひらがな(現代仮名遣い)で書け。

問二 傍線部①について、次の問いに答えよ。

(1) どのようなことをしたのか。主語を明らかにして具体的に説明せよ。

(2) そのようにしたのはなぜか、説明せよ。

問三 傍線部②について、次の問いに答えよ。

(1) ひらがな(現代仮名遣い)で書き下し文に直せ。

(2) 誰から誰へどのような行為がなされたのかを明らかにしながら現代語訳せよ。

問四 傍線部③について、次の問いに答えよ。

(1) この文の主語は誰か。文中の語で答えよ。

(2) このような行動をとったのはなぜか。本文全体を踏まえて具体的に説明せよ。